

# ふじさん

fujijoho group monthly magazine

平成28年指針

## 富士情報

## 彩異才

[今月のひとこと]

基礎研究

- ・ストレスチェックを実施します
- ・CMTでの納品を伝送方式に
- ・宮下取締役（丸久）が富士河口湖町特別体育功労者表彰



秋の富士山（富士山レーダードーム付近）

写真提供：富士吉田市（富士山課）



## 基礎研究

社長 渡辺直企

先日、東京工業大学の大隅良典名誉教授がオートファジー（細胞の自食）の研究を評価されノーベル医学生理学賞の受賞が決まりました。

大隅良典名誉教授は記者会見などで基礎研究の重要性を繰り返し訴えています。マスコミや政府関係者は何に役に立つのかという点を重視し、ともするとすぐに応用に結びつかないような基礎研究を否定するような発言が目立ちます。基礎研究はすぐに役に立つとは明言できませんが、研究以外でも未知の領域にチャレンジすることで研究に伴う技術、手法の開発、人材の育成、科学精神の発揚など様々な効果が期待できます。しかし、基礎研究であればなんでも予算をつけるというのも非現実的です。限られた予算の中でより効果が大きなテーマ、組織に注力すべきです。民間企業では依頼元（製品所管部門）からの特定製品の特定テーマの研究を指定して依頼研究という枠組みがあります。依頼研究は範囲が限定的になりますが、依頼元と方向性や評価などにおいて認識が異なり、「研究所は言われたことだけやっていたらよい」「そんなんじゃ実際の製品に使えない」などと言われることも少なくありません。ましてや基礎的な研究になればなるほど評価が難しくなります。

研究という未知の領域にチャレンジする場合は3つの観点が重要だと思います。「能力」、「観点」、「価値観」です。未知の領域の研究とはいえ、大学、大学院などで学ぶ知識は非常に重要で、その利活用のための技術も合わせた能力を兼ね備えることが重要です。知識は権威であり測定可能です。

研究には非常に優秀な人材が多く携わっています。しかし、優秀な人材であっても成果を出すのは容易ではありません。優秀であればあるほど、人気のあるテーマを選択できるので面白く流行っているテーマに集中する印象があります。しかし、人気のあるテーマで世界と伍するのは容易ではありません。独自のテーマにおいて競合力を持ちそこに注力すべきなのですが、競合力があるのはマイナーなテーマである場合が多く、このようなテーマでは大学等で人気がないため人材の確保に苦労することが多いようです。

大隅名誉教授は変人を自称し、「人と競争したくない。他人がやらないことをやるのが楽しみの本質だ」と言っています。「流行」も重要ですが「流行」に縛られることなく、権威の枠組みを超える「観点」を持つことが重要だと思います。

研究は不確実ですので、権威からの評価を重視しがちになります。心理学者のマズローは5段階の欲求階層を定義し第一階層の「生理的欲求」から第五階層の「自己実現欲求」まで定義しました。権威からの評価は第四階層である「尊厳欲求（承認欲求）」に相当します。このレベルでは、すぐ評価される近視眼的で利己的な観点になってしまいます。大隅名誉教授はインタビューで、基礎研究の重要性を訴え、現状を憂い、そして一億に近い賞金をあげて若手を育てるために役立てたいとコメントしています。マズローが晩年に追加したさらに上位の「自己超越」という段階に該当すると思います。「目的の遂行・達成『だけ』を純粹に求める」という領域で、見返りも求めずエゴもなく、自我を忘れてただ目的のみに没頭し、何かの課題や使命、職業や大切な仕事に貢献するような「価値観」を持っています。

研究のみならず、会社組織においても堅く守る部分と果敢にチャレンジする部分があります。チャレンジするときの観点を大事にして成長を続けたいと考えています。

## ストレスチェックを実施します

平成26年6月に施行された「労働安全衛生法の一部を改正する法律」などに基づき、「心理的な負担の程度を把握するための検査」、いわゆる「ストレスチェック」を社会保険加入者を対象に実施します。定期健康診断と同様に毎年1回の実施が義務づけられていますので、必ず受検してください。

ストレスチェックは、各自のストレス値を部署・部門ごとに集計・分析することで、ストレスの高い部署・部門については、仕事の質と量に見合った人員配置や職場環境の改善、長時間労働などを是正し、働きやすい職場づくり、個人個人のストレスへの気づきを促しメンタル不調者の発生を未然に防ぐことを目的としています。

今年度は11月7日から11月30日までの間にSOMPOリスケアマネジメント㈱が提供するWebシステムを使用して実施します。詳細については改めてお知らせします。

ストレスチェックの集計・分析は『労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル』で示された「仕事ストレス判定図」に準拠して行われ、対象集団の規模は10人以上の部課単位ごとに集計され、個人の特定ができないように10人未満の部課については他部署と合算して集計されます。

## ○宮下取締役(丸久)が表彰されました ～富士河口湖町特別体育功労者～

丸久の宮下啓三取締役が昨年に引き続き「富士河口湖町特別体育功労者」として表彰されました。

7月に行われた「日本マスターズ2016バドミントン競技山梨県予選会」の55歳以上男子ダブルス部門で優勝した功績に対するものです。

## OCMTでの納品を伝送方式に切り替え

お客様への入力データの納品にはさまざまな方式が採られています。その中でカートリッジ式磁気テープ(CMT)が主要ベンダーからの出荷が終了になったため、これに変わるものとして9月にHULFT(セゾン情報システムが開発した企業や企業間のファイル転送ソフト)による伝送環境を導入しました(写真)。

10月から順次HULFT伝送に切り替えていく予定です。



### 今月の表紙

### ～秋の富士山～

今年は9月25日に富士吉田市から富士山の冠雪が確認されたものの、甲府气象台からは確認できず、その後の降雪がないために「富士山の初冠雪」がいまだに発表されていません。甲府气象台の観測で最も遅かったのは1956年の10月26日です。次に降る雨は富士山頂では間違いなく雪になると思われます。甲府市の天候次第では今年は遅い記録の更新になるかもしれません。

表紙の写真のように富士山の積雪とともにふもとは秋の色を濃くします。富士吉田市では10月22日から11月6日までふじさんミュージアムや道の駅富士吉田周辺で、富士河口湖町では11月1日から11月23日までもみじの回廊など河口湖畔で、山中湖村では10月21日から11月6日まで旭ヶ丘湖畔緑地公園でそれぞれ「もみじ祭り」が開催され、期間中はライトアップなどが行われます。



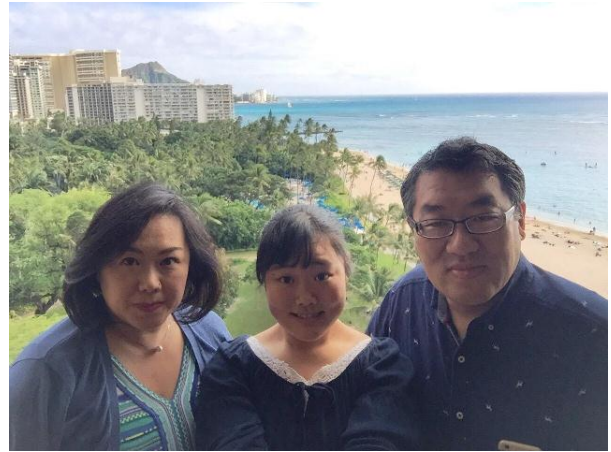
私の趣味  
No.445

## 家族旅行

後藤正英

家内、ひとり娘と一緒にいく家族旅行が最大の楽しみとなっています。

損保という業種は、総合職で就職した以上、全国各地に3～4年スパンで転勤するのが宿命であり、子供が学校に入ると「単身赴任」を余儀なくされる社員も少なくありません。私もご多分にもれず、福岡、新潟、今回の山梨と合計3回の単身赴任を経験しております。



今でこそスマホの画面で顔を見ながら会話ができるフェイスタイムなど、離れて暮らしていても近くに存在を感じられるようなコミュニケーション手段がたくさんありますが、最初の単身赴任時には携帯電話で話すくらいであり、家族との繋がりを持つには、それなりの努力が必要でした。その様な事から、最低でも年1回は家族全員と一緒に旅行をしようと約束し、それから毎年継続しています。

娘が学校に入ってからスタートしたので、もう約10年以上になり、国内外の様々な場所を旅行してきました。最初の旅行は、グアムでした。当時は、片言でも英語を私が一番話せ、旅のリーダーシップをとることができたのですが、その後娘は毎日学校の授業で英語に触れており、今では「恥ずかしいからパパは話さないで」と言われる次第で、ここ3年程は会話はすべて娘任せになっています。

また、当初から個人手配の旅行にこだわり、家内がネットを駆使して、ホテル選び、切符の手配等々をしてきました。その為、今では予算の中で上手にツアーコーディネートできるスキルを身につけており、最近は行き先、行程など、すべて家内と娘で楽しそうに決め、私は口を挟む余地が全くなくなっています。「費用を出すのは私なのに」との思いは少々ありますが、行きたくないなら二人で行くと言われてしまいそうな恐れもあり、受け入れざるを得ない状況です。

時折、これまでの旅行を振り返ってみたり、あわせて子供の成長を実感したりと、私にとっては無くてはならない家族旅行となっています。現在娘は高校2年生。友達との付き合いも多くなっており、いつまで家族での旅行が続けられるかと心配でもありますが、家族のコミュニケーション維持のためにも、できる限り長く続けていきたいと願っております。この家族旅行は、日頃留守がちな私にとっての家内や娘への罪ほろぼしの気持ちもあり、それがあから、単身赴任先で思いっきり楽しめているというも、私の正直な気持ちです。

まだ山梨に来て半年、これからますます山梨を楽しみ、山梨のお役に立てるよう頑張っていきたいと思う今日この頃です。皆様 よろしくお願ひ致します。

(損害保険ジャパン日本興亜株式会社 山梨支店 支店長)